

V231c ひとみ望遠鏡中分散分光器での試験観測

松下真人, 溝口小扶里, 長谷川哲郎, 土佐誠 (仙台市天文台)

ひとみ望遠鏡ナスミス分光焦点に設置されている中分散分光器には、2種類のスリット(1.35秒と2秒)と3種類のグレーティング(低分散モード:600本/mm、中分散モード:1,714本/mm、1,800本/mm)があり、低分散モードでは可視光域のスペクトルを一度に取得することも可能である。

ひとみ望遠鏡中分散分光器における基礎データ取得のため、2秒スリットの低分散モードで中心波長を5,000に設定し、恒星の分光試験観測を行った。本観測により、スペクトル型の違いによるピーク波長の違いを確認した。また、恒星スペクトルに見られる吸収線を同定し、吸収をもたらす原子や分子およびイオンの違いを確認した。これら、既知の恒星スペクトルを観測することにより、ひとみ望遠鏡中分散分光器における分光観測の基礎データと位置付ける。

なお、2014年6月に分光用冷却CCDカメラをApogee社U16からFLI社PL-16803に変更したため、引き続き分光基礎データの試験観測を実施している。

本講演では、ひとみ望遠鏡中分散分光器での試験観測の結果について報告する。